

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 4 区分

【発行日】平成 18 年 12 月 14 日 (2006.12.14)

【公開番号】特開 2001-250287(P2001-250287A)

【公開日】平成 13 年 9 月 14 日 (2001.9.14)

【出願番号】特願 2000-63390(P2000-63390)

【国際特許分類】

G 1 1 B 7/26 (2006.01)

B 2 9 C 45/00 (2006.01)

G 1 1 B 7/253 (2006.01)

B 2 9 K 69/00 (2006.01)

B 2 9 L 17/00 (2006.01)

【F I】

G 1 1 B 7/26 5 2 1

B 2 9 C 45/00

G 1 1 B 7/24 5 2 6 P

B 2 9 K 69:00

B 2 9 L 17:00

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 10 月 27 日 (2006.10.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

染料を含む着色剤は、800 メッシュ以上の加熱フィルターにより濾過されることにより、染料の最大粒子は 50 μm 以下とされる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

また、合成樹脂、例えばポリカーポネート樹脂を成形したディスク基板を着色剤により均一に着色するためには、染料をディスク基板中に均一に溶解分散させる必要がある。染料がディスク基板中に均一に分散されないと、成形されたディスク基板の光学特性に色の濃淡に起因する色むらを発生させる。色の濃色部分の点在による色むらは、着色剤に含まれる染料粒子の大きさだけでなく染料の融点も影響していると考えられる。例えば、ペリレン系染料であるソルベント R, 135 は、融点がポリカーポネート樹脂をディスク基板に成形する場合の成形温度より高い 307 であるため、溶解しづらく均一にディスク基板中に分散されない状態が発生する。このような染料を用いる場合には、染料粒子径を 30 μm 以下にする必要がある。